あった．そのうち人口に関連のある報告としては次のものがあった．

固定対象群における全死因群および特定死因群の死亡予測……ＡＢＣＣ　大　竹　正　徳
戦後の国勢調査結果とＣＯＨＯＲＴ累加死亡数の組合せ利用の一方法…大阪大学　飯　淵　康　雄
日本国民生命表の資料からの曲線の作図の供覧と解説……大阪大学　丸　山　　博
最近の職業別にみた人口再生産率……山　口　喜　一
人口移動の統計的分析……岡　崎　陽　一

このうち，丸山教授の報告は都合で行なわれなかった．このほか，特別部会において13題の報告があったが，そのうちＡ（予測の実際）において，上田正夫部長が「日本の人口予測とその問題点」と題する報告を行なった．

なお，本年度の共通テーマ報告としては「日本に於ける統計学の現状と将来Ｉ」があり，活発な討論が行なわれた．

（山口喜一記）

## 国際人口学会ロンドン会議

標記の会議（London Conference of the International Union for the Scientific Study of Population）は，1969年９月２～11日ロンドンにおいて開催された．前回（1967年）のシドニー会議が regional conference であったのに対して，今回は general conference である．

日本からの参加者は，国立公衆衛生院の村松　稔室長，本研究所黒田俊夫部長（以上は本学会の財政援助による参加）のほかに南亮三郎（駒沢大学），河野稠果（人口問題研究所，国連出向中），岡田　実（中央大学，パリ留学中），森岡　仁（駒沢大学）の４氏が参加された．

Session は次の10個の題目別に構成されている．

(1) 人口数学，出生力分析におけるシミュレーション方法とモデルの使用，不完全人口統計の利用，サンプリングと人口学，開発途上国におけるデータ収集の諸問題
(2) 出生力の比較研究，アジア諸国における出生力の変動，ラテンアメリカにおける出生力の傾向，アフリカにおける出生力の傾向
(3) 世代死亡率の研究，先進国における死亡率の社会・経済的格差，周産期と乳児死亡
(4) 堕胎の人口学的側面，家族制度の現状，家族計画の将来発展の展望，家族計画調査の評価方法とその結果，人口政策の諸問題
(5) 人口コントロールの経済学，労働力人口の人口学的側面，人口圧力と経済・人口変動との関係，女子雇用の人口学的側面，人口と土地利用
(6) 世帯構造と規模の変動，教育と人口，家族研究の人口学的側面，結婚の諸問題
(7) 歴史人口学――1800年以前，歴史人口学――1800年以降
(8) 人口学専門家の需給，人口教育の組織，カリキュラムとコースの内容
(9) 国際人口移動の量と構造，移民政策，高能力労働力の移民
(10) 国内人口移動評価の方法，都市化の人口学的側面，国内人口再分布政策と実行方法

上記の同時平行 session のほかに総会 session として「世界人口の現状」と「次の30年間の展望」があり，前者は A. Sauvy により，後者は M. Macura によって報告が行なわれた．

黒田は「国内人口移動の評価方法」(10.1) session の chairman を仰せ付かり，また「都市化の人口学的側面」(10.2) については solicited paper を提出した．（本会議の詳細については，本機関誌第113号に「資料」として載録する予定である）

（黒田俊夫記）